

## The Structure of Banking in Regional Market: Evidence from Micro Data of Kyoto City

京都大学大学院 王 凌

大阪産業大学 石橋 尚平

京都市の産業は、大規模な装置産業型ではないにもかかわらず、高い付加価値率を実現している。京セラ、任天堂、村田製作所といった国際的な優良企業の本社も京都市内に位置する。また、サービス産業においても、京都の伝統工芸品に関わる卸売や小売業の他、観光や大学に関わる事業も京都市特有のものとして挙げられる。また、京都の伝統工芸は中小企業が支えており、創業が数百年前にさかのぼる老舗も少なくない。

金融機関の法人取引に関する市場構造も京都の特色が強い。「信金王国」と言われるように、京都市を事業区域とする信用金庫は、二つとも日本でも最大級の規模となっている上に、有力地銀の京都銀行も京都市に本店がある。我々が分析に用いたサンプルによると、京都市内を所在地とする法人 5,863 社のうち 3,720 社、すなわちサンプル全体の 63.4%の企業が、これらの 3つの地域金融機関をメインバンクとして考えており、京都市の経済において欠かせない存在となっている。

我々は大手銀行、地方銀行、信用金庫の 3つの業態のいずれかの金融機関をメインバンクとする京都市内の 5,863 法人のマイクロ・データから、ロジット・モデルによる推計を通じて、以下の四つの点を分析した。①どのような法人の属性がいずれの業態の金融機関がメインバンクになっていることに影響を及ぼしているのか、②金融機関と法人との地元を通じた関係性はいずれの業態の金融機関がメインバンクになっていることにつながっているのか、③金融機関間の相互作用は、いずれの業態の金融機関がメインバンクになっていることにつながっているのか、④市場の競争は、いずれの業態の金融機関がメインバンクになっていることに影響を及ぼしているかの 4点である。モデル式の推計結果から我々は興味深いインプリケーションを得た。